

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400174		
法人名	博愛長寿苑美濃里		
事業所名	あったかホーム I・II		
所在地	岐阜県不破郡垂井町宮代1153-2		
自己評価作成日	平成25年10月14日	評価結果市町村受理日	平成25年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2172400174-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あったかホームは、併設型のグループホームであり、ケアハウス・デイサービス・高齢者向け優良賃貸住宅が有り、季節の夏祭りや運動会等行事を合同で実施している。ボランティアの来訪も多く利用者は歌・踊り・演奏等を楽しみにされている。又週に2回の転倒予防体操やエアロビでADLの低下を予防するアクティビティをおこなっている。グループホームの夕食作りやおやつ作りには、畑で作った野菜を作って料理をする等家庭的な雰囲気でも過ごせる様な環境を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台に立地しているホームの窓から、180度の景色が見渡せる。特に、夜景は美しい。広い敷地内に、安全な散歩コースもあり、豊かな自然を満喫している。自前の畑では、野菜や花を、利用者と一緒に育て、潤いのある生活を楽しんでいる。敷地内には、同法人が運営する複数の老人施設があり、合同の行事を通し、地域住民や利用者同士が交流をしている。管理者・職員は、地域や家族との連携を密に保ちながら、利用者の機能低下(ADL)を予防し、家庭的で、あったかみのある暮らしを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不 安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中での福祉複合施設としてのグループホームがあり、「健康でいきがいあふれる地域作り」の理念を掲げ、管理者と職員は名札の裏にはさんで共通意識を持ち実践している。	理念は「健康で生きがいあふれる地域作り」である。目につく場所に掲示し、職員の名札の裏にもはさみ、日々確認し、共有している。利用者の思いに寄り添い、健康で生きがいのある暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の敬老会や地域のイベントの参加。法人内 行事の夏祭り等への参加。併設サービス利用者・ケアハウス入居者との交流が定期的に行われている。また喫茶店や買い物で外出している。	自治会員として、地域の行事や敬老会に参加している。法人合同の行事では、地域住民と親しく付き合いをしている。併設のサービス利用者や幼稚園児、小学生とも、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントに入居者の作品を掲示したり、パネルを掲げ認知症の支援や生活を理解して頂ける様紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、事業所の取り組み内容や課題等の話し合いが持たれている。また、その意見はホーム内で共有し、質の向上へと結びつけている。	会議は、隔月に開催し、行政や地域関係者、家族が参加している。活動状況を報告し、防災、栄養、ボランティア、健康管理などで、意見を交換し、サービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加して頂き、市町村役場福祉高齢化の担当者との意見交換を実施している。	行政主催の研修会、会議には積極的に参加している。運営推進会議では、担当者から、介護保険の現状、法改正などの説明を受けている。困難な課題は、その都度相談し、連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に開催し、身体拘束をしないケアを実践している。利用者の安全を守るため家族の理解のもと、玄関のみテンキー対応とし、日中は窓は開錠して自由に庭や各階に行き来できるようにしている。	身体拘束ゼロに取り組んでいる。マニュアルを整え、研修会で学んでいる。利用者の「立ちたい・歩きたい」の思いに寄り添い、声かけと見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の勉強会を年に1回カンファレンスで開催している。又その資料にて、職員全員が理解し、虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホームあったかホームⅠ・Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	年に1回カンファレンスにて権利擁護に関する勉強会とその資料にて、職員全員が学び、外部研修でも個々に研修にて学び理解を深め支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の説明、重要事項の説明はもちろんのこと、退居時も含めた話し合いの場を持って理解のうえ、契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には訪問時・家族会時・遠方の方には手紙で呼びかけ、意見・要望を気軽に聞き出せる雰囲気作りに留意している。また玄関入口に無記名記述式の要望箱を設置して気軽に意見を書けるように工夫している。	家族には便りで、気づいたことを伝えてもらうように呼びかけている。また、訪問時や家族会でも、要望等を聞いている。職員と家族が一体となって、本人を支えたいとの声があり、相互に信頼を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体カンファレンスの他、ユニット内カンファレンスを開催し、職員間で意見や提案が出せるような雰囲気作りに努めている。また管理者に直接意見や提案が言える環境にある。又日頃からコミュニケーションを図るように心掛けている。	全体会議の場で、職員の意見や提案を話し合っている。ケアの気づきや個々に合せたオムツの選択などを検討し、改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のない勤務シフト調整を行っている。年2回の人事考課を実施し、職員の向上心とやりがいとなっている。管理者は職員の体調やストレスを考慮し、やりがいや向上心を持って無理なく働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT制度にて指導を行い、介護者教育にて段階的な研修を実施している。外部研修案内も回覧し情報を提供して参加を促している。個々の経験や力量も確認して勤務調整を行い、キャリアアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人が老人福祉施設協議会に加入し、情報交換を行っている。また研修参加の場で他施設との情報交換を行いサービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談を通じ不安や困っていることを傾聴して本人が安心して生活して頂けるよう努めている。又後家族からの情報を元に個々のキーワードを把握して信頼して頂ける関係作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	是までの生活状況やご家族の要望・不安等アセスメント用紙を使用ししっかり聞き少しでも不安の軽減になるよう担当職員はじめ職員との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人とご家族の思いや身体的状況を確認し出来る限り必要としている支援の見極めサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや苦しみ・不安・喜び等を知ることにも努め、暮らしの中で分かち合い共に支えあえる関係づくりに留意している。生活一般に通しては生活の知恵や夕食作りの時には料理のコツを教えて頂き経験して来た事を教える嬉しさを話せる環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にはご本人の居室でお茶を飲んで頂きながら家族と過ごして頂いている。又本人の日頃の状態を報告・相談するとともに家族会等の開催により日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、本人を支えていく為の協力関係が築けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの行きつけの美容院や接骨院・病院・喫茶店やお墓参り、外泊・旅行など今までの生活習慣を継続している。また、知人友達親戚の方々の面会も有り是までの関係を継続している。	複合施設での催し物に出かけ、友人・知人、親戚などに会えるように支援をしている。行きつけの美容院や喫茶店も安心できる場所である。今までの生活が継続できるように、馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が自由な時間を過ごせるように声を掛け日々の生活の中で関わりを持ち、職員が間に入り入居者同士、支えあいトラブルの無い生活を送れる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居された方に会いに、馴染みの利用者と一緒に遊びに行ったりして是まで築いてきた関係を継続していき本人や家族の支援をおこなっていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情等からその真意を推し測ったりしている。また、ケアプランの立案ではセンター方式を活用し本人の思い・生活歴等をアセスメントし立案している。	日常会話やケアの場で、思いや意向を把握している。困難な人は、身近な事例を提示し、思いを汲み取っている。希望や意向は、全職員間で共有し、当たり前な暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者と馴染みの関係を築きながら利用者の過去の暮らしぶりや価値観等小さな事柄でも情報を伝えてもらえるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残脳能力を引き出し出来る限り自分で出来る事は行って頂き、出来ないことや出来なくなって来た事は職員や入居者の皆さんと一緒に行って頂けるように援助し、職員は申し送りを確実に言い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	他職種と連携を図り、問題点の見直しを行い、介護計画を見直し3ヶ月毎に作成更新している。	全職員で、利用者の様子をアセスメントし、本人・家族の意向を計画に反映させている。必要に応じ、専門職に意見を求めている。支援経過を、随時モニタリングをし、柔軟に見直しを行っている。	さらに、利用者本位の介護計画が作成できるように、全職員の意見集約を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカフェで現状の介護計画に本人の状態・希望が反映されているか職員間で検討を行い、問題が発生したら直ぐに解決策を立案し対策をして本人の現状に合った介護計画を実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や理美容等事業所以外でのサービスを活用することもできる。理学、作業療法士からレクリエーション、日常生活におけるリハビリについてアドバイスを受けることもでき、本人・家族の状況に応じたニーズに対応できるよう心がけている。		

岐阜県 グループホームあったかホーム I・II

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に数回の地域又は近隣市町村からのボランティアの訪問があり、交流の機会を持っている。また、個人・家族の希望に応じ、訪問理美容・歯科往診を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診・通院は個人家族の希望を尊重し、往診や施設の送迎にて受診など対応している。また複数の医療機関と密に連携している。	かかりつけ医は、本人・家族が選択している。協力医の往診が月に2回あり、それぞれのかかりつけ医との連携も整っている。通院受診と送迎は、家族の希望に応じ、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により看護師を配置し、利用者の体調管理や状態変化に対応している。異常時には、看護師に連絡し、24時間体制で適切な指示を受けられる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人の母体が病院の為安心して入院治療が出来る。又入院中も回復状況の確認をしに面会に行く等している。同病院に入院の場合はMSWを始め病院職員と家族と回復状況等情報交換しながら、退院支援を行っている。他病院に入院の場合はご家族を中心に情報の提供をして頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族と話し合い、同法人内の特養に申し込みをしてもらっている。また、要医療となった時点で転居も理解してもらっている。	入居時に、重度化や終末期の方針を、利用者、家族に説明している。早い段階から、家族、関係者で話し合い、身体状況に応じた転居先を紹介するなど、適切に支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員の協力も得て、すべての職員が年1回以上の応急処置・AEDの操作方法・救急救命法の勉強会に参加している。緊急時対応も業務マニュアルとして、文章化されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力も得て、年2回(昼・夜)の防災訓練を入居者・ケアハウス入居者とともに実施している。また、緊急連絡網を作成し緊急時の防災訓練を防災委員会を中心に行っている。年に1回カンファレンスで防災委員の勉強会を実施し学んでいる。	法人内に防災委員会を組織し、年に2回、夜間想定を含めた、火災訓練を実施している。委員会を中心に、緊急連絡網を完備し、通報訓練も行っている。地域との協力関係はできている。	火災を含め、水害や地震を想定した、マニュアルの整備や自主訓練に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報とプライバシーの保護に関してのマニュアルにて統一している。職員は個人の気持ちを考えさりげないケアと声掛けにより尊厳を大切に心掛けている。	一人ひとりの個性を尊重し、尊厳ある会話に努めている。本人の性格を理解し、優しい言葉をかけている。職員もゆとりを持ち、落ち着いた態度で接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者側からの押し付けや思い込みにならず、利用者に提案し自己決定する場を設けるようにしている。また複数からの選択肢を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながら可能な限り、本人の意思を尊重・個別ケアとなるように支援している。アセスメントをし、無理のない希望にそった生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は好みのものを着てもらっている。自分では難しい方には、アセスメントにより、その人に合わせ複数より選択してもらっている。起床時や入浴後の髪型も希望を聞いて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の食事作りやおやつ作りでは畑で育てた野菜を使って利用者の希望を聞き取り入れている。また、栄養面でのアドバイスを栄養士に受けている。その他の食事時には、各々の能力に合わせ、盛り付け・片付けなどを行っている。	職員と共に、食事の準備や片づけを行っている。季節の野菜が食卓を彩り、職員も一緒に同じ食事をしている。週に2回、食事やおやつ作りの場を提供し、楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段は法人の栄養士が考えたバランスのとれた食事であり、食事量は毎食記録し体調の変化に気をつけている。水分摂取量が少ない方は、ポカリスエットのゼリーを食べてもらう工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔清拭の見守りと声掛けを行っている。利用者より口腔内の異常の訴えがあった時、職員が異常を発見した時は、歯科医の受診や協力歯科医による歯科往診を受けるようにしている。義歯は每晚洗浄剤で洗浄して衛生管理を行っている。		

岐阜県 グループホームあったかホーム I・II

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の自尊心を配慮し、個々に合わせた援助を行っている。排泄失敗時にも利用者を傷つけないよう、また失禁が増えてきた場合、使用物品の検討を行いその方に合った物を使い快適に暮らせるよう配慮している。	羞恥心に配慮し、さりげなく声をかけ、トイレへ誘導している。夜間は、個々の状態に合ったオムツを使用し、安眠につなげている。個別の排泄時間を、常に観察し、自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防する為十分な水分摂取と食物繊維が多い食べ物の食事摂取を促し、散歩やレクリエーションで体操や運動をして活動するように心掛けている。それでもやむ得ない場合は医師・看護師と相談のもと暖下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日出来る体制で入居者其々は週3回、昼間と夜間の入浴で希望する時間に入浴して頂いている。希望されたらいつでも入浴出来る体制を整えており、入浴を拒む方に関してはアセスメントより声掛けや対応方法の工夫を行い、入浴が負担とならぬよう配慮をしている。	入浴は原則週に3回である。利用者の希望で、昼夜、回数など、柔軟に対応している。拒む人には、声かけを工夫し、状態に合わせて、隣接デイサービスの機械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時の生活習慣や希望を職員は把握し安眠できる環境を整えている。休息時間は体調や習慣等状況に応じてもらうように考慮している。眠剤を服用されている方等、特変事項は確実に記録するよう徹底している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服についての副作用、用法、用量の処方箋を個別にカルテに保管し、職員が内容を把握している。内服変更時は口頭と文書にて確実に申し送りを行っている。内服は投薬確認表にて二重チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが自分らしく暮らせるよう個々に合った役割をアセスメントし生き活きと生活出来る様、活躍の場面を作っている。それらを毎日継続する事で楽しみや自信となり生きがいとなるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望も踏まえ、天候や体調に合わせて散歩やドライブ、外食、買い物等の外出を取り入れている。アセスメントや希望により個別で喫茶店へ出かける方もみえる。可能な限り外出希望には応えられように配慮している。	敷地内の散歩コースを、日々散歩している。途中にある東家で、お茶を飲むことができる。希望者で、喫茶店や買い物、ドライブなどの外出をしている。	

岐阜県 グループホームあったかホームⅠ・Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解のもと自分でお小遣い程度の金額を財布とともに所持される方もおられる。それが本人の不安の解消と満足につながっていると思われる。買い物の際は支払いをして頂きお金を持って使う満足感を実感してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや切手は常時用意してあり何時でも書けるようにしている。年賀状や暑中見舞いは個人の能力に合わせて書いて出している。また電話時には本人と会話できるような声掛けと援助を行っている。電話をかけたい希望があれば支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南に面した広い窓とフロア中央の吹き抜け部分の天窓からの採光がホーム全体を明るくしている。リビングには水槽が設置され、広い壁には季節の行事等の壁画を飾り利用者の安らぎとなっている。また庭から花を摘み、リビングや玄関等に一緒に飾り、季節感が感じられる空間となっている。	南に面した窓からは、居ながらに季節感を味わうことができる。居間の要所に、ゆったりとくつろげるソファを配置している。手づくり作品や写真集を、目線に飾り、心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他の箇所にも応接セットを設置し、自由に使用できるようになっている。気のあった仲間どうしの会話や少人数で、落ち着ける空間となっているように思われる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・机・椅子・備え付けクローゼットは入居前より設置済みであるが、家具や寝具等は使い慣れたものを使用してもらっている。また、個々に家族の写真や置物・仏壇等を所持され安心できる空間となっている。	居室の洗面台やクローゼット、ベッドは備え付けである。洋服や写真等を掛けるフックを設けている。使い慣れた寝具、置物などを持ち込んでもらい、落ち着いた部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には手作りの大きな文字で作った名字が飾られ分かりやすいように工夫している。トイレ前には分かり易い言葉、馴染みの言葉で表示している。フロアは段差なく歩行しやすい。また、個人の身体能力に合わせてベッドは使い分けている。		